PALIS'S TEXT WORKS

卒業
-ファイナルゲーム-

© Palismiki

〇ラジオドラマ〇

『卒業−ファイナルゲーム−』

◆登場人物◆

１：美 香(15)…主人公

２：絵 里(15)

２：正 人(15)

３：俊 樹(15)

４：義 孝(15)

５：　遥　(15)

６：先輩連中(複数人)

７：校 長 ほか(複数人)

作:ぱり～みき

第一話

1	オープニング
2	待ち合わせ場所

〇オープニングF.O.～SE:夜中・虫の音など。

美　香　「まちゃと(正人)まだ来ない。待ち合わせココだよねぇ」

絵　里　「まぁ～、まちゃとだからねぇ。う～っさぶいっ」

〇SE:自販機で缶ジュースを買う音。

美　香　「ちょっと絵里！この忙しい時になにジュースなんか飲んでんのよっ！」

絵　里　「ジュースじゃないですー、ココアですー。
さんざん走り回ったんだからココアくらい飲ませてよ……」

美　香　「早く学校に戻んないと
あとで三浦(俊樹)たちに何言われるかわかんないよ」

絵　里　「まちゃと来なきゃどうしようもないじゃん」

美　香　「もおっ！まちゃとぉ～！！」

絵　里　「もう夜遅いからねぇ。どっかで寝てんじゃないの？（笑）」

美　香　「(思い出したように腹を立てて)まったく……だいたい三浦俊樹の言ってることもおかしいんだよ！ まだ３月だよ！？
こんな時期に…しかもこんな夜中に花火なんて売ってる店なんか有るわけないじゃん」

絵　里　「あたしに言わないでよ。……ほら、この時計見て」

美　香　「あっ、カワイ～♪　新しいの買ったんだ？」

絵　里　「(テンション上げて)うん♪お年玉全部使っちゃったの～♪
(一気に下げて)…じゃなくて時間！もう１１時だよ？
深夜だよ？」

美　香　「深夜だね」

絵　里　「ねぇ、ホント、あいつらマジで明日やるの？」

美　香　「……マジだね」

絵　里　「マジって……アタシらの卒業式だよ」

美　香M『三月半ばの深夜。
春先とはいえまだ寒風吹きすさぶこんな夜に、
明日、大事な卒業式を控えたウチら中三女子が、
なんで必死に花火なんか探し回っているのか？
これには深い……いや、さして深くもない事情がある』

○SE：自転車の近付いてくる音。

絵　里　「あ、まちゃと（正人）きた」

美　香　「え？」

正　人　「はぁはぁっ……お、お待たせ。そっちはどうだったの？」

美　香　「全然ダメ。アンタは？」

正　人　「問屋さんとか遅くまでやってるスーパーとかあたって
コレだけ……」

美　香　「と、問屋って……アンタ問屋に連絡したの？」

正　人　「うん。だって、今時花火なんて売ってるお店無いし……」

美　香　「ないし……ってアンタ、そんな事したらすぐ足がつくでしょうがっ！？」

○SE：ＯＦＦ気味で自販機で缶ジュース買う音。

正　人　「……あ、アシ？……って？？」

美　香　「ばっ、馬鹿じゃないのっ！？アンタ！」

絵　里　「まちゃとにそんな知恵はない。だってコイツ馬鹿だし♪（笑）」

美　香　「そういう問題じゃないでしょ、
根本が解ってない！……って絵里！何本ココア飲めば気が
済むのよ」

絵　里　「ココアなんか飲んでないわよっ！」

美　香　「だって今……」

絵　里　「麦芽一番絞りよ♪」

美　香　「なお悪い！」

正　人　「あはははは、美香ちゃんたちって本当に仲良しなんだね～」

絵　里　「仲良し♪仲良し♪あはははは～」

美　香　「そこの酔っ払い！笑うな！（正人に）おまえも笑うな！」

○F.0.

3	学校敷地内…深夜

○SE:複数台の自転車が近付いてくる音→ブレーキの音。

○SE:人が走って近付いてくる音。

絵　里　「あ、三浦俊樹みずからお出迎えか？」

正　人　「敏樹く～ん！買ってきたよ～！」

○SE:引っ叩く音＆正人のリアクション声

俊　樹　「うるせぇよバカ！
おまえら、ちゃんと裏から静かに帰ってこいよ、ボケ！」

正　人　「ご…ごめんなさい…」

絵　里　「はいはい、すんませんね（言い捨てる感じ）」
（※この台詞は正人の台詞と同時か食い気味で…）

美　香M『出迎えた第一声がこれか？』

俊　樹　「で？ブツは？」

正　人　「うんっ…これだけ買ってきたよ（SE:コンビニの袋を開く音）」

俊　樹　「コレッぽっちじゃまだ足んねぇよ、何やってたんだよテメェら！？」

○SE:俊樹が正人を２～３発小突く音＆正人のリアクション

美　香　「……こんな時期に花火なんか売ってるわけないんだよ」

俊　樹　「探し方も足んねぇんだよ！探しゃ絶対あるって！」

美　香M『だったら自分で探せ！
……この三浦俊樹だけはどうも好きになれない。まるでダダッ子のような理不尽なキレ方をする。まあ、おもに被害を受けてるのは、まちゃとだけだから別にいいけど、こんなバカが今回の計画のリーダーだと思うと先が思いやられる』

○SE:歩いてくる靴音二人分。

俊　樹　「おう、義孝、遥」

遥　「チィス」

義　孝　「オィース。どうよ？調子は？」

俊　樹　「三人使ってコレッぽっちだよ」

義　孝　「まあ、しょうがないんじゃん？バカの御荷物も抱えてる事だし
女の子二人でそれだけ探せば上等でしょ？」

遥　「またぁ！ヨッシー女に甘過ぎ」

義　孝　「（遥に向かい）くだんね一事言ってんじゃねぇよ。
（俊樹に向かい）まあ、こっちの方もある分で準備は進めてるぜ」

俊　樹　「そうか。……いよいよ明日だな。」

義　孝　「明日か」

遥　「なんかドキドキするね」

正　人　「でも……いいのかなぁ？」

○SE：正人を蹴る音＆正人のリアクション。

絵　里　「なんにも知らないみんなは、今ごろ気持ち良く寝てるんだろうな……」

美　香　「夜中だもん」

美　香M『夜は寝る為の時間。 そんな真夜中に私たちだけ起きて秘密の計画を進めるという高揚感。 あたしはこんな気持ち、今まで生きてて一度も味わった事が無い。 ……ある意味、みんなが起きている時に、私だけが寝ていたのかも知れない。そんな自分をドカンと派手に目覚めさせる計画』

美　香　「明日か……」

美　香M『明日、私たちの卒業式をぶっ壊す』

第一話 -終-

第二話

4	オープニング

〇オープニングF.0.美香のモノローグ

美　香M　『深夜の学校に集まったあたし達。
その目的は明日の卒業式をメチャメチャにぶっ壊すこと。
なんでそんなことするのか？と聞かれても特に理由なんてない。
［後先も考えずそんなことするなんて、最近のガキは…］
とか大人達はすぐ言うかも知れないけれど、後先どころか今もよくわからない世の中を作ってる奴らになんか言われたくない』

5	校舎内

〇SE：車の扉が閉まる音～エンジン作動～走り出す。
〇ちょっとした間。

義　孝　「ＯＫ。警備帰ったぞ」

〇みんなで沈黙を破る感じでアドリブ。
「はあぁ～」とか「やっと行ったか…」など

遥　「へぇ、警備会社ってちゃんと仕事してたんだね？」

美　香　「夜の学校なんて来た事ないからね～」

俊　樹　「よし、みんな集合」

〇SE：ばたばたとみんなが集まってくる。
※状況的には見回りの警備会社を回避するために
散開して隠れていた。

義　孝　「とりあえず、この時間の見回りさえ回避すればあとは朝までＯＫだぜ」

俊　樹　「よし。時間無いけど、バカもいるからもう一回だけ確認するぞ」

正　人　「ごめんなさ…」

〇SE：台詞を止めるように叩く音＆リアクション

俊　樹　「時間ねえって言ってんだろ!…まず、俺と義孝で体育館のセッティング。遥は見張りで立ってろ」

遥　「え～っ女の子一人で暗がりに立たせる気～？
ヨッシーも一緒でイイでしょ？」

義　孝　「バカ、遊びじゃねぇんだよ」

遥　「べ～だっ（ヨッシーに向かって冗談ぽく悪態をつく感じ）」

俊　樹　「はぁっ（あきれた溜息）　そんで美香と絵里とバカで
残った花火をといて足りない爆薬作りを進めること…」

正　人　「ば、爆薬っ！？」

〇SE：（俊樹、義孝、遥で正人を叩く音＆リアクション）

俊　樹　「テメェ…これで三度目だぞ。何回驚きゃ気が済むんだよ」

正　人　「ご、ご、ご、ごめんなさい……
でも、爆薬なんて……あ、危ないよぉ」

〇SE：首などを絞める効果音。（正人を締め上げる俊樹）

俊　樹　「もともとテメェに発言権なんてねぇんだよバカ！
嫌なら計画から外れろ」

義　孝　「ちょっと待てよ、そんな事して…こいつ俺たちの計画バラさねぇか？」

俊　樹　「誰が開放するって言ったよ。
縛り込んで式が終わるまで監禁しときゃいいんだよ」

遥　「なーるほど～♪」

〇ほんの瞬間の間。

俊　樹　「なんだよ美香、その目は？俺になんか文句でもあんのか？」

美　香　「……別に（言い捨てる感じ）」

絵　里　「（小声で）美香、別にまちゃとの事なんかほっときなって」

美　香　「……え？あ、うん……」

美　香M『コイツに名前、呼び捨てにされた…気分悪い』

6	体育館

〇SE：バサバサと花火を床にまく音。

絵　里　「あ～あ、めんどくさい。まだこんなにあるよ……」

美　香　「う、うん……そだね（上の空）」

〇ちょっとした間。

絵　里　「……ちょっと美香、ナニそんなキョロキョロしてんのよ？」

美　香　「(焦って)え、えっ？……べ、別にキョロキョロなんて……」

絵　里　「(何かを察して) ま、誰を探してるのか？
だいたい解っちゃってるけどね～ンフフ♪(ニヤニヤ)」

美　香　「なっ！なにニヤニヤしてんのよ、気持ち悪い」

絵　里　「いいから、いいから。ちゃんと解ってんだから。
あんた、前からヨッシーのことばっか見てたもんねぇ」

美　香　「べ、別に……見てないし(絶句)」

絵　里　「でも、残念だったねぇ。遥がライバルじゃ完全に勝ち目ないよ」

美　香　「なんで！？あの二人別に付き合ってるわけじゃ、
……あっ(自爆白状の図)」

絵　里　「はははっ、ホント解りやすい子だよ。美香ちゃん♪」

美　香M『卒業式ぶっ壊し計画……理由が無いなんてのは嘘。
他のみんなはどうか知らないけれど、私にはささいな理由が
あった。』

絵　里　「あきらめなよ。どう見たってあの二人付き合ってるって、
気付かない美香がニブすぎ」

美　香　「べっ、別に……」

美　香M『……別に気付かなかったわけじゃない。
あたしだってなんとなくは……。
ただ認めたくなかっただけ。だって……』

絵　里　「しかしあの二人お似合いだよねぇ。美男美女っていうの？
ヨッシーはカッコいいし、遥も男子には人気高かったしさ。
ま、あたしはあんな顔だけの薄っぺらい男には興味ないけど」

美　香M『イケメンが美女としか付き合えない世界なんて……夢が無さ
過ぎるよ。』

正　人　「うわっ！！ちゃちゃちゃっ！！！
(火を当てられ熱がるリアクション)」

俊　樹　「ははははっ！おもしれぇ♪お前ら今の見たか？ まちゃと飛び
上がったぜ♪」

正　人　「俊樹くぅ～んっ！火はやめようよぉ～！やけどしちゃうし……
今、僕、火薬扱ってるから」

俊　樹　「別に、お前が火に近づかないように努力すりゃいいんだよ(笑)」

正　人　「知らないうちに後ろから燃やされたらわかんないじゃない～っ」

俊　樹　「解ったよ。今度からカッターにする(笑)」

美　香　「あんた、そんなバカなことばっかしてて……ちゃんと作業してるの？」

俊　樹　「ウッセーよ。俺はお前らと違ってバッチリと用意周到なんだよ(余裕の発言)」

絵　里　「そういえば、ここの花火……あたしたちの持ってきたのより確実に多いよね？」

美　香M『正確には【まちゃとが持ってきた花火】だけど』

俊　樹　「言ったろ？俺は用意周到なんだよ♪お前らも俺を見習ってさっさと作業進めろ」

絵里＆美香「やってるし！！」

美　香　「ジャマしてんのあんたじゃない！？」

俊　樹　「(思い出したように)あ、別にジャマしに来たんじゃネェよ。ヨッシー知らねぇ？」

絵　里　「ヨッシーはあんたと一緒にいたんじゃないの？」

俊　樹　「便所かな？配線のセッティング途中でいなくなったから」

絵　里　「遥んトコだったりして♪」

美　香　「えっ！？」

俊　樹　「はあっ！？　ったく……ナニやってやがんだあいつ」
(正人のくだりからここまでは意外と普通のテンションで。義孝と遥が一緒…と聞いてからほんの少しムッとした感じで)

絵　里「そりゃあ……何してんでしょうねぇ～♪(ニヤつきながら)」

美　香「……探そう！」

俊　樹「……別にほっときゃすぐ戻ってくんだろ？」

美　香「だって、時間無いんでしょ！？明日の計画どうすんのよ！」

絵　里「別にそこまでしなくたって……」

美　香「あ～、ん～、じゃあ、あたし探してくる！絵里はココお願いっ」
(じれったい感じで焦って台詞。その後その場を飛び出す感じ)

○SE:美香が走り去る足音。

絵　里「ち、ちょっと美香！」

7	疾走する美香

〇SE:美香の走る音や息遣い。
〇それにモノローグを重ねる感じで。

美　香M『白雪姫は偶然通りかかった王子様のキスで目覚めた。
……そこに偶然通りかかったのが、ただの農夫だったとして
……農夫のキスで目覚めた白雪姫は、農夫を愛したろうか？』

美　香M『美女と野獣のベルは魔女の魔法が永遠に解けなかったビーストを本当に愛し続けることができたんだろうか？』

美　香M『シンデレラは？ 魔法で着飾ったシンデレラがもしブサイクだったら？ 眠れる森の美女は？』

美　香M『いつも夢いっぱいのフリして、シビアな現実を見せるおとぎ話があたしは嫌いだった』

8	校舎裏

〇立ち止まる足音。
走って疲れた美香の息遣いだけが少し続く。
〇息遣いに被せる感じで義孝と遥の楽しそうな会話Ｆ・Ｉ
※会話はなんでもイイんですが、アドリブに困ったら以下の会話をOFF気味でF.I.してください。

義　孝　「……だってこの前おまえ、オレの部屋でスゴイ顔して寝てたぜ」

遥　「うそっ！なんで起こしてくれなかったの～ヨッシーに変な顔見られちゃった」

義　孝　「気ぃ使ったんだよ(笑)あ、シャメも撮ってあるぜ」

遥　「やめてよぉ～！(携帯を奪う)えいっ消してやるぅ～」

義　孝　「バカ、返せよ(笑)」

〇以後、義孝と遥の声、通常の音声。

義　孝　「……遥」

遥　「……ん」

〇キス音。

美　香M『……王子と姫のキスを目の当たりにした、
……あたしが目覚めた』

第二話 -終-

第三話

９	オープニング

〇オープニングF.0.

１０	校舎裏

〇前回の続き。美香の荒い息遣いが徐々に落ち着いてくる。
〇off気味で義孝と遥がイチャイチャしている声。

美　香M『……卒業式をぶっ壊すとか、そんなことは本当はどうでも良かった。　あたしは、ただ勇気が欲しかっただけ。
義孝君のあのステキな笑顔が私だけに向けられたら……。
そんなチャンスをいつも探してた。』

美　香M『クラスの中の一人より、５人の中の一人の方が義孝君の笑顔を独り占めするチャンスも多いかと思ったら、
……はじめから、そんなチャンスなんて無かった』

遥　「……えぇっ……ち、ちよっと、体育館にみんないるんだからバレちゃうよぉ……んっ」

〇なんとなくエッチの展開。

義　孝　「大丈夫だよ。みんな明日の用意に必死だから裏庭まで来やしないよ……」

美　香M『おとぎ話はやっぱり正しい。
この世の中は、お姫様と王子様だけの世界なんだ』

〇SE：草むらが揺れる音。
（美香とは別方向から俊樹登場）

俊　樹　「だぁれが何に必死だって？（イヤミたらしく）」

義　孝　「と、俊樹！？」

遥　「やっ、ちょっと…なんで！？（急に入ってきた俊樹に取り乱す）」

俊　樹　「義孝、おまえ何やってたんだ！？」

義　孝　「べ、別にちょっと休憩くらいいいだろ！？」

俊　樹　「休憩？　おまえの休憩は必死に女とイチャつく事か？（イヤミ）」

義　孝　「……わ、悪かったよ」

俊　樹　「おまえ良い身分だよなぁ～、こっちが一生懸命体育館で明日の準備してる裏で美人の彼女とイチャついてられるんだからよ」

遥　「ちょっと！それってヒガミ！？」

義　孝　「おい、遥やめろよ（遥を制する）」

遥　「だって、言われっぱなしで悔しいじゃん
コイツ、自分が彼女いないからヒガんでるだけなんだよ」

俊　樹　「なにぃ！？」

義　孝　「やめろ、遥」

遥　「ヨッシーだって言ってたじゃんっ！最近俊樹の態度がオカシイって」

俊　樹　「なっ、なにぃ！！！（怒り）」

遥　「あたしがその理由言ってあげようか？
俊樹は自分が負けてクサってるだけなのよ！」

美　香M『負けた？』

遥　「コイツ、ヨッシーと一緒に受けた工業高校……ヨッシーが受かって自分だけ落ちたこと、まだ根に持ってんでしょう！？」

俊　樹　「はぁっ！？（怒り）」

美　香M『……アイツ、ヨッシーと別々の学校だったんだ』

遥　「そりゃ自分の舎弟だと思ってたヨッシーよりもレベルの低い高校に行くんだもん。寝覚めは悪いわよねぇ～」

義　孝　「遥！！黙れっ！！（大声）」

遥　「よ……ヨッシー？」

義　孝　「ごめん！俊樹！！オレからこいつにはよく言っとくから」

俊　樹　「……おまえもそう思ってたのかよ？」

義　孝　「べ、別に、オレはそんな事……」

俊　樹　「お情けでこんなくだらない計画に参加してやったってか？」

義　孝　「だからオレは……」

俊　樹　「ふざけんなっ！！だったらオレ一人だってやってやるよ！
そんなつまんねぇ義理に付き合わせちゃ、悪いもんなあ！！」

義　孝　「バカ言うなよ、一人で何ができるってんだよ……
みんなの計画だろう？」

俊　樹　「余計な情けなんかイラネェよ。一人だって何とかなるんだよ！
それに、オレにはまだ仲間がいるんだ……」

義　孝　「仲間？俺達以外に誰かいるのか？？」

俊　樹　「お前らがいなくても何とでもなる……
絶対にやってやる……
くだらねぇ卒業式なんざぶっ壊してやるよ……」

○陰で見ていた美香が合流。

美　香　「賛成……」

遥　「美香？」

美　香　「なんかやる気出てきたかも。
……こんなくだらない世界、卒業式ごとぶっ壊せばいい」

俊　樹　「よし美香！俺についてこい！オレと革命を起こすぞ！！」

美　香M『そんなアンタ込みでくだらないって言ってんだよ』

○SE：去っていく二人の足音。

遥　「ふん、美香や、まちゃと程度で何ができるってのよ」

義　孝　「俊樹、他に仲間がいるって言ってたよな？
本当に誰かいるのかも……」

遥　「へ？」

義　孝　「体育館にセッティングした、爆薬に着火させる配線なんか
俺達ごときで準備できるモンじゃないし」

遥　「えっ？あれって、ヨッシーが作ったんじゃないの？」

義　孝　「まさか。簡単な配線程度なら解るけど…アレは無理だよ
それに爆薬用の花火だって、ほとんど俊樹が用意したんだ」

遥　「マジ？……」

１１	体育館

○SE：体育館の中をドカドカと歩いて入ってくる俊樹の足音。
その後から着いて来る美香の足音。

絵　里　「まちゃと！バカが帰ってきたよ！」

正　人　「あ、敏樹くん～花火もうすぐ終わるよ」

○SE:どかっ！殴る音。

俊　樹　「おせぇんだよっ！！さっさと終わらせてセッティングしねぇと
間に合わねぇだろうがっ！？」

正　人　「ひいぃっ……ご、ごめんっ！」

○SE:どかっ！と激しく蹴る音。
何発か蹴る音に被せて以下の台詞。

俊　樹　「さっさとしねぇと、ケツに花火つっこむぞ！この野郎っ！！」

正　人　「ご、ごめんっ！急ぐから……ご、ごめ……ごめんなさいっ！」

俊　樹　「うるせえっ！！このノロマがっ！！」

○俊樹の暴行は続く。
一方的に暴力を振るう俊樹と暴行を受ける正人の
リアクションアドリブ。→徐々にoff気味に。

絵　里　「美香ぁ～、何処行ってたのよ！？義孝と遥いた？」

美　香　「（とまどいながら）えぇ……」

絵　里　「つーか、ちょっと、あのバカ(俊樹)どうなってんのよ～？
なんかあったの？マジでキレてない？
バカがもっとバカになってる！？」

美　香　「(淡々と)時間が無いからでしょ？
早くしないと夜が明けるわよ！」

絵　里　「え、……美香？」

美香モノ『気分悪い。。。
あたしの立っているこの世界…。あたしの周りの空気。
周りのみんな。周りの全て……みんなみんな気分が悪い。
もうこの世界は末期になってるんだ。
選ばれた人間だけの世界。選ばれなかった者の痛みや苦しみ
なんかに誰も目もくれない……。
そんな優しくない世界なんか……もう要らない！』

第三話 -終-

第四話

１２	オープニング

○オープニングF.0.

１３	体育館

○BGに俊樹が正人を殴り続ける音＆リアクション。

正　人　「(殴る音の連続にかぶせて)ごっ…ごめっ！……ごめんなさいっ！俊樹君っ……あうっ！」

俊　樹　「ナニ謝ってんだよっ！てめぇなんか悪い事やったのかよっ！？えっ！？やってんのかよっ！？」

絵　里　「ち、ちょっと！アンタ…いい加減にしないとまちゃと死んじゃうよっ！」

俊　樹　「(息を荒く)はぁ、はぁっ…うっせぇんだよっ！！テメェも殴られてぇのかっ！？」

絵　里　「あっ…アンタ、頭おかしいんじゃないのっ！？」

正　人　「え…絵里ちゃんっ……ぼ、僕は大丈夫だからっ……」

俊　樹　「はあっ！？」

正　人　「と……俊樹君はきっと…悲しいんだ……と、俊樹…クンは辛いんだ……よ」

俊　樹　「この野郎…ナニほざいてんだ！！」

正　人　「い、いつもの…俊樹君じゃ……ない……俊樹君は、今、泣いてる……(SE:殴る音)」

俊　樹　「なっ…何知った風な事ぬかしてんだよっ！！
このクソガキっ！！(殴り続ける)」

○SE:殴り続ける音＆正人リアクション

絵　里　「美香！…ちょっと、何、冷静に作業なんかしてんのよっ！
あのバカ止めてよ！完全にイカレてるって！」

美　香　「ほっときなよ」

絵　里　「ほっときな、って……ヤバイよ、絶対……まともじゃない」

美　香　「ほっとけばいい、絵里も言ってたじゃん、まちゃとの事なんかほっときなって」

絵　里　「そ、それは……」

美　香M『卒業式を明日に控えて、こんな所にいる時点でまともなワケないじゃん。 絵里…あたしやあんたも含めてね。
まちゃとだって、殴られて喜んでるようなもんだし。完全な変態じゃない。
まともなヤツなんか誰一人としていない。みんな頭がおかしいんだ。 自分の思い通りにならない毎日の憂さ晴らしに誰かを傷つける。
自分が何者なのか？も解らず、惰性で人生を生きてる。
自分がしている事がどんなに大変なことかも解らず、ただヘラヘラと笑っていられる。 自分が気持ちいい事だけを正当化して、周りに対して配慮もない。 他人をだまして平気な顔でお日様の下を歩く悪人。そんな人間の所にだけ集まる権力やお金。 力の無い者はそんな真っ黒な人間に媚びて生きていく……サイテーっ！
この世の誰一人、他人の痛みなんかカケラほども解らない……！？(何かに気付く)』

○殴る音とリアクション、offから前面へ

正　人　「うぐっ！！……ごふっ！！俊樹……く、君っ……わかったよ……もう解ったから……」

俊　樹　「うるせぇっ！！てめぇに……なにが解るってんだよっ！！
ぁあっ！？(殴りながら)」

美　香M『まちゃと……』

○SE：一発大きく殴る音。以下、暴行音無くなる。

俊　樹　「テメェに……テメェみたいなバカに俺のなにが解るってんだっ……(殴りやむ)」

正　人　「……へ、へへへっ……わ、解るよ僕。
ダテに、と…俊樹君に、毎日殴られて……ないからね。
(ボロボロになりながら)」

○SE：正人が俊樹のコブシを手にとる音。(微妙ですいません)

正　人　「と、俊樹君のこの手から……感情が流れて来るんだ。
……ツライよ……苦しいよ……って」

俊　樹　「……な、何言ってんだ……(図星を突かれて戸惑っている)」

美　香M『そんなわけない……まちゃとだって……あんな適当な事言って、暴力から逃れたいだけに決まってる』

正　人　「なにがあったの？大丈夫……僕、なんでも聞くよ」

俊　樹　「う……うっせぇんだよっ！！」

○SE：大きく一発殴る音。

俊　樹　「どいつもこいつもムカつくんだよっ！！
てめぇみてぇなバカにまで同情されたらおしまいだぜっ！」

正　人　「俊樹君……」

俊　樹　「義孝だってそうだ……、今までは俺の後ろでただヘラヘラしてたくせに、たかが受験に失敗した俺を急に見下しやがった上に、チャラチャラ彼女なんかとイチャつきやがって……。
俺ははじめからあんな学校なんか行きたくなかったんだよ！！
それを義孝がどうしてもって言うから……あいつなんか一人で進学も決められないガキだったんじゃねぇか！」

美　香　「どうしようもないわね……」

俊　樹　「なにっ！？」

美　香　「どうしようもないほどガキなのはあんたの方じゃない」

絵　里　「美香っ！？」

美　香　「あんた何様のつもり！？学校決めたのも、受験に失敗したのも全部自分のせいじゃない！！
物事うまく行かないのを全部他人のせいにして、自分はその腹いせに他人をボコってストレス解消！？
つくづくおめでたいわよね！」

俊　樹　「なんだと！？テメェ！！」

美　香　「どうせ卒業式ぶっ壊す計画だって、心の中じゃ誰かのせいにしてんでしょ？ 今度は誰？先生？受験社会？それともあたし達にそそのかされたって？」

美　香　「そんな理屈、いつまで続くと思ってんのよ！？」

正　人　「美香ちゃん……」

美　香M『……そんなことを口走りながら。
あたしはあたし自身にあきれ果てていた。
……よくもまあ、そんな偉そうな事が言えたもんだ』

美　香M『あたし……このウスラバカと同じじゃない！！
自分の人生まで流されるままに生きて、
心を満たしてくれる何か？をただ待ってるだけ。
好きな男に告白もしないくせに、自分に振り向いてもらえない現実にただイラだってこんな事してる。。。
あたし、三浦俊樹と何が違うのよ！？』

○SE：作業道具を落とす音。（カランッてな感じ）

美　香　「(急に冷めた感じで)あ～あ、ばかばかしい。や一めたっと。
絵里、帰るよ」

絵　里　「ぇえぇぇ～～？？(なに言ってんの？てな感じ)」

俊　樹　「テメェ裏切るのかよ！？」

美　香　「あんたもそろそろ大人になって、こんな馬鹿なことやめなよ」

○SE:去っていく足音。二人分。

俊　樹　「や…やめねぇ……俺はやめねぇぞっ！！一人になったってやってやる！！」

美　香　「どうぞどうぞ……勝手にやってください」

正　人　「敏樹くん……」

○SE:体育館の扉が開く音。
○SE:一人分の拍手の音。

ＯＢ１　「えらい、えらい、さすがは俊樹だ」

俊　樹　「せ、先輩！？」

美　香　「先輩？」

○SE:何人かのＯＢの足音が体育館の中に入ってくる。

ＯＢ２　「(ＯＦＦ気味で)おとなしくしてろっ！
(遥と義孝を連れてきている状況)」

遥　「(ＯＦＦ気味で)ちょっと！放してよ！」

義　孝　「(ＯＦＦ気味で)や、やめてくださいよっ……」

○上三つの台詞は以下の俊樹の台詞に
被せてもいいくらいです。

俊　樹　「どうしたんですか？
先輩達は明日乗り込むはずじゃなかったんですか？」

ＯＢ１　「お前等がちゃんとがんばってるか見に来たんだよ」

ＯＢ２　「お前らがバッチリ決めてくんねぇと計画は全部無駄だからな。
…なんかモメてるみてえだしよ」

俊　樹　「だ、大丈夫ですっ！俺だけでもなんとかやり遂げますから！」

ＯＢ３　「頼むぜ。イロイロと元手がかかってるからな」

義　孝　「俊樹、この人達っておまえの言ってた……」

俊　樹　「ああ、俺達の計画を支援してくれてる人達だ」

ＯＢ２　「おまえ達のじゃねぇよ、オレ達の計画だ。
お前らはただ働くだけのコマだ」

〇ＯＢたちが笑う。

美　香　「(小声)そんな事だろうと思った……」

絵　里　「ちょっとぉ……なんかやばそうな感じだよ」

ＯＢ１　「そんなお前等だけじゃ頼りないかと思ってさ、手伝いに来て
やったよ」

〇SE:パイプ椅子をいくつかなぎ倒す音＆遥や絵里の驚く声。

ＯＢ１　「ほら、お前らもやれよ。面白いぜ(笑)」

ＯＢ２　「垂れ幕の後に落書きしようぜ！最後にはがして驚かせんだよ！」

ＯＢ３　「ははははっ！いいなそれ」

〇SE:椅子をメチャクチャにする音やスプレーの音が入り
混じる。不良たちの笑い声や「やれやれ～♪」など
の声もＯＦＦ気味で。
※下の台詞のBGでしばらく続く。

絵　里　「やだ……ちょっと、なにコレ」

遥　「本当にメチャクチャになっちゃうよ……」

義　孝　「当たり前だ……俺達こうする為に来たんだからな」

美　香　「ほら、どうしたのよ三浦俊樹。あんたもやってきなよ」

俊　樹　「……う、うるせぇな……(ちょっと気弱になっている)」

正　人　「俊樹くん……本当にこれでいいのかな？」

〇SE:しばし騒ぐ音が続く。
〇SE:体育館の扉が勢いよく開く音。

教　師　「こらっ！！お前らそこで何をしているっ！？」

ＯＢ１　「やべぇっ！逃げろ！」

ＯＢ２　「撤収！撤収！！」

教　師　「待てっ！逃げるなっ！！」

○現場が騒然とする。
○教師２～３人とＯＢ複数人との乱闘。

遥　「ヤバイって！あたし達も逃げようっ！」

義　孝　「逃げるったって……」

美　香　「みんなで散り散りになって逃げよっ！」

俊　樹　「さっさとしろ！」

正　人　「ああっ……俊樹くんっ！待って」

○SE：火薬や花火がパンパンという音＆教師達が驚く声。

教　師達「おおっ！？……な、なんだっ！？ま、待てえっ！！」

ＯＢ達「ヒャッホー！（などロ々に言いながら逃げ回る）」

ＯＢ達「くらえっ！！花火爆弾っ！！！」

○騒然となる体育館の音に被せて美香のモノローグ被せ。

美　香Ｍ『赤・黄色・緑・白……色とりどりの火花がまぶしいくらいに視界を覆った。
卒業式の為に並べられた椅子も紅白幕もすべてめちゃくちゃになっていった……これが明日、私達がしようとしていた事』

美　香Ｍ『改めて今回の計画を目の当たりにしたあたしは、その罪悪感を感じる前に……目の前に広がるカラフルな光景に見惚れていた』

第四話 －終－

第五話

１４	オープニング

〇オープニングF.0.

１５	体育館

〇BGで前回のラストの音源。花火や暴動で騒然となる体育館。

教　師　「なっ！？なんなんだっ！？こらっ、待てぇっ！？」

Ｏ　Ｂ　「へっへ～いっ！オラオラっ！！これでもくらえっ！？」

〇SE:バンバンと花火が破裂する音やパイプ椅子がガラガラとなぎ倒される音。
〇ＯＢや教師達が追いかけ回って騒いでいる、
ちょっとしたパニック状態。が数秒の後Ｆ.Ｏしつつ、
ＯＦＦ気味維持のまま、以下の美香のモノローグが被る。

美　香Ｍ『卒業式を明日に控えた体育館の中で破裂する火薬や花火。
その色とりどりの光とけたたましい音と煙の中、
あたし達は各自バラバラに外への出口を探して走っていた。
どこをどう逃げたのかは、正直よく覚えていない。』

〇off気味のパニック状態が完全に消える。

１６	帰り道

〇SE:夜の音。虫の声。車などもたまに横を通るような。

美　香Ｍ『気が着くとあたしは絵里と二人、
深夜の歩道を無言のままただボォッと歩いていた』

〇SE:玄関が開いて閉まる音。(ギィ～、ガチャンッ…的な音)

美　香Ｍ『家に戻ると、家族もとっくに寝ていた。
娘が必死の思いでいた事も知らず、心配もせずすやすやと……
なんて思ったりもしたけど、考えてみたらあたしは今晩、
絵里の家に泊まってることになっていたのをボンヤリと思い出した。
朝、いつのまにか自分の布団で寝ている娘を見たら、
二人とも驚くんだろうな……なんてことを考えながら
いつの間にかあたしも眠りについていた』

X　　X　　X

〇BGイメージ音源(やわらかめな静かな曲)

美　香M『あたし達の中学最後の大イベント…卒業式ぶっ壊し計画は、
変な緊張と盛り上がりの中、あっけなく幕を閉じた。
……失敗。
結果的にはそんなオチだったけど……なんとなくホッとしている自分がいる。 もし成功していたら、心から気持ち良かったんだろうか？ 高揚感に胸が躍ったんだろうか？
……こんな穏やかな気持ちのまま朝を迎える事ができたんだろうか？ 今となっては絶対解らないことだけど……、
それでもいいような気もしてる』

１７	朝の教室

〇朝の学校の音。
（教室内、がやがやと生徒が話している音）

美　香M『昨日、あんなことがあったにも関わらず、何食わぬ顔で教室に入る自分に我ながら驚きだけど……学校に入るのに脇を通る体育館には、やはり視線は動かせなかった』

美　香M『……そもそも昨日の騒ぎって、本当のことなのかな？
ただのあたしの夢だったりして？』

〇SE：教室の戸を開ける音。（ガラガラッ……など）

絵　里　「あっ！美香おっはよ～♪（元気よく）」

美　香　「……お、おはよ（ちょっと呆気にとられて）」

美　香　「ち、ちょっと……なにそんな元気に挨拶なんかしてんのよ
目立つじゃないのっ（耳打ちするように小声で）」

絵　里　「（気にしてないけど一応小声で）
美香こそ、そんなにビクついてたらメチャ怪しいっつの」

絵　里　「（声のトーンを普通に戻して）いつも通りの絵里ちゃんですよ♪
普通。普通。ははははっ」

美　香M『その言動がぎこちないっつの……』

絵　里　「ほら、あそこも相変わらずだしね」

〇敏樹や義孝が正人の頭をペチペチペチペチ…と
軽めに何度も叩く音。

俊　樹　「オラ、オラ、解ってんのか？オラ？
（本気で怒ってない、冗談のレベル）」

義　孝　「ホラちゃんとお返事！
ちゃんと顔上げてその馬鹿面見せろ（これも冗談ぽく）」

正　人　「ごっごっ……ごめんなさ～いぃぃ～っ（あまり悲壮感は無く）」

遥　「きゃははっ、情けねぇ～」

俊　樹　「ちゃんと悪いと思ってんのか？おまえいつもフリだけだからな」

遥　「まちゃとも反省してるみたいだしねぇ～あと５００発で許してやったら♪」

義　孝　「俺らの手が痛いわ」

遥　「ホラ。そこの用具箱にホウキあるよ。アッチの箱にはシャベルとか(割と淡々と)」

俊　樹　「それいいな♪」

遥　「なんだったら解剖しちゃう？？遥はそっちの方が面白そう～♪いひひっ♪」

正　人　「か、勘弁して～っ」

義　孝　「おまえは鬼かっ！？」

○敏樹も義孝もそんな事を口々に言いながら、正人をペチペチと叩いている。
○まちゃと周りのやり取りが終わると、offになりBGへ。

美　香　「相変わらず……っていうか、鬼度が増してない？」

絵　里　「仲良しこよしの風景じゃん♪」

美　香　「あんたも鬼だ(呆れて笑っちゃうような感じ)」

美　香M『三浦俊樹たちも、無事だったのか。
まぁ、良かった…っちゃ良かったね』

○俊樹が美香に気付く。

俊　樹　「よぉ、美香～！絵里～！こっち来いよ」

美　香　「むっ！」

○SE:ツカツカと俊樹に近付く美香たちの足音。

美　香　「あたしはあんた達とは仲良しでもなんでもないんだからっ！呼び捨てにすんなっ！」

俊　樹　「まあいいじゃねぇか、俺達まんざら知らない仲じゃねぇんだし♪」

美香・絵里「だからキモイっつの」

美　香M『なんだこのニヤケ顔は……、先輩に踏み込まれた時の、
あの顔を、今のコイツに見せてやりたい』

絵　里　「でもさ、なんでこんなにまちゃとがどつかれてんの？」

美　香　「そんなのいつもの事じゃん」

義　孝　「いや、それがだよ、聞いてくれよ仔猫ちゃんたちよ」

美香・絵里「おっさんかっ！」

遥　　「（小声で）昨日、仲井先生飛び込んできたじゃん？」

美香・絵里「うんうん」

遥　　「あの仲井を呼んだのが、実はこの馬鹿だったってこと」

絵　里　「まちゃとが～！？」

正　人　「ごめんなさいっ！……だ、だって……
やっぱり爆弾は危ないと…（ボカッと殴る音で止められる）」

俊　樹　「だから声がでけぇんだよっ！？」

正　人　「ごっ…ごめんなさ……い（だんだんと小声）」

絵　里　「まあ、まちゃとも知恵が働いたんだねぇ～エライねぇ～」

義　孝　「何言ってんだよ、オレらの計画を潰した奴だぜ」

絵　里　「まぁ……そうだけどさ。
なんていうか、やっぱこれで良かったんじゃん？
なんかさ、もし成功してたら……引くじゃん？」

遥　　「うーん。。。まぁそれもあるかな～？」

義　孝　「……そうかもな」

正　人　「でしょ♪　でしょおっ♪」

○SE：ボコッ！と殴る音。正人リアクション。

俊　樹　「テメェがいうなっ！」

美　香M『なんだ……みんなおんなじじゃん（少し喜んでる）』

美　香　「あっ！……ところで卒業式！どうなったの？先生も来てないし」

絵　里　「あ、今緊急の職員会議やってるみたい。二年と一年で、会場
を片付けてるから、終わったらとりあえずやるみたいよ」

美　香　「へぇ～」

俊　樹　「よぉしっ！まちゃと！おまえに大事な使命を与える」

正　人　「えっ！？なになに？」

俊　樹　「おまえ、卒業証書受け取る時にみんなの前で、ナントカ戦隊の歌歌え！」

正　人　「え、えぇえっ！？」

義　孝　「イイじゃん♪歌え歌え」

絵里・遥「いいねぇ～まちゃとオンステージ♪」

正　人　「そ、そんなぁ……大事な卒業式だよぉ～？」

俊　樹　「うるせぇな、俺達の計画を潰したお前に断る資格なんかねぇんだよ」

義　孝　「まぁ、ショボイぶっ壊し方だけど、しょうがねぇか(笑)」

正　人　「う、うううう～ん(困ってる)」

美　香　「あんたもホンとくだらない事ばっか考えるねぇ」

俊　樹　「惚れたか？」

美　香　「この知恵を勉強に向ければ高校も落ちなかっただろう…ってことよ」

俊　樹　「なっ…ナニィイッ！！この野郎っ！」

美　香　「まぁたっ！！あんたはそうやっていつも暴力ばっかふるって！」

絵　里　「まぁまぁ、血圧上がるよ(笑)」

美　香M『そんなこんながありながらも、卒業式の幕は何事もなかったように上がった』

１８	卒業式

○BGM:合唱ＣＤの『仰げば尊し』※下記モノローグに被せる。

美　香M『親達もいるせいか？はじめに校長から少年犯罪がどうのこうのと遠まわしに騒ぎについて触れられたのみで、まったく問題無く卒業式は進んでいった』

○『仰げば尊し』F.O.
○女教師の呼び出しF.I.→off気味で。
（時間も無いのでだいたい一人呼んだら１５秒黙って次を呼ぶスタイルで。）

女教師　『出席番号１５番：羽田健次郎
出席番号１６番：福岡義弘
出席番号１７番：藤田伝次郎
出席番号１８番：本川宗次　……』

※女教師の呼び出しの声には、体育館という演出を付けるためリバーブのような響きを入れてください※

〇女教師の呼び出し(off)に以下の台詞を被せます。

※状況的には、みんな同じクラスなので席が近い感じです。ここは卒業式中の会話という事で、みんな小声でお願いします※

俊　樹　「ふぁあ～あ(あくび)ツマンネェ……
なんでこんな事長々と時間使ってやってんだ？」

美　香　「ちょっとぉ、静かにしなさいよ。まったく」

義　孝　「まぁな…こんなの後でまとめて配ったって変わんないのにな？」

遥　「まあ、親とかにしてみれば一番の見せ場だからじゃないの？」

義　孝　「遥、お前これからだろ？緊張する？」

遥　「メッチャメチャ緊張してるよぉ～～、ヨッシーちょっと手繋ごう？」

義　孝　「やだよ、みんな見てんじゃねぇかよ」

絵　里　「はい。しっかり見てます(笑)」

美　香　「あたしは見てない(微妙にちょっとだけムッとしてる)」

遥　「またぁ、ヨッシー絶対浮気してんだろぉ？くっそー」

義　孝　「ほんっとに、いちいちウゼェなぁ？おまえ、別れたっていいんだぜ」

遥　「ちょっと、マジで言ってんの？」

美　香　「やっぱり……付き合ってたんだ？」

遥　「うん♪もうラブラブ☆」

義　孝　「ウソウソ本当は付き合ってなんかないんだ。
美香ちゃんオレと付き合おうか？」

美　香M『なっ！……ナニィイイイッ！！』

美　香　「……冗談じゃない(言い捨てる感じ)」

遥　「プッ……ヨッシーフラれてやんの(笑)」

義　孝　「ちぇっ、残念～(冗談ぽく)」

絵　里　「へぇえええ～～～♪(ニヤニヤした感じ)」

美　香　「絵里……殺すよ」

絵　里　「へ～い（返事）」

美　香M『……スゴイ！今の一言で完璧冷めた』

俊　樹　「おい、次、まちゃとだぞ」

女教師　『(ＯＦＦでなく)出席番号２０番：牧村正人』

※こんな感じで、最後に正人の名前を呼ぶので、
上の台詞の間の時間を割って他の生徒の呼び出しを入れてください※

○SE:壇上に向かう足音。

校長先生「(小声)おめでとう」

正　人　「あ、……あ、ありがとうございますっ」

○SE:たどたどしい足音。BG。

正　人　「はぁはぁ……はぁっ、はぁぁっ……(緊張して息が荒い)」

俊　樹　「(小声)あの野郎……さっさと歌えよ」

○SE:ドキッドキッという心臓の音。F.I.

正　人　「よしっ……」

○BG:たどたどしい足音が止まる。

○校長の前のマイクを手にする正人。
（マイクの微妙にハウッた音などＳＥで）

校長先生「ち、ちょっと君……」

正　人　「（息を思いっきり吸って)たっ……戦え～っ♪正義の戦士達よ～♪(エコー)
(適当なヒーローモノの歌っぽい感じで歌いだして止まる)」

○ざわざわとする卒業式会場。

俊　樹　「やった♪」

美　香　「でもちょっと変じゃない？」

〇まだざわざわしてる会場内。

教　師　「こらっ！なにしてるんだっ！？早く降りなさいっ！」

正　人　『(エコー)あ、あの……あの、激烈戦隊ヤブレンジャーの歌を
歌おうと思ったんですけど……や、やっぱりやめて……
ぼ、ボクのす、好きな歌を歌います。。。』

俊　樹　「はぁっ！？何言ってんだ？」

義　孝　「この際なんでもいいじゃん」

〇BGのざわざわ音F.O.
〇正人がアカペラで『わかれ』という歌を歌う。

正　人『(エコー)　さらば　さらば　我が友

しばしの　別れぞ今は

さらば　さらば　我が友

しばしの　別れぞ今は

身は離れゆくとも　心は一つ

いつの日にかまた会い見ん

さきくませ　我が友　　』

〇シーンとする会場。

※これ以降の正人の台詞も同じようにエコーで※

正　人　『……こ、これはぼ、ボクが小学校の卒業式で歌った歌です。
と、友達のことをうたった歌だそうです』

〇何かしんみりするＢＧＭなどあれば加えてください。
(悲壮感は漂わない曲で……)

正　人　『ぼ、ボクは昔から、と、友達がいませんでした。
ぼ、ボクは昔からあ、あんまり頭が良くないので、
う、うまく人と喋れない感じでした。。。』

正　人　『な、なので、ず、ずっと独りでいました。誰とも喋らないで
ず、ずっとい、いました。すごく、さ、寂しかったです。
だ、だから、卒業式でこの歌を歌った時、
この歌みたいなと、友達が中学でできたら嬉しいなって思っ
てました』

正　人　『でも、中学でもずっと同じでした。
ぼ、ボクは…き、気持ち悪いって、誰も近付きませんでした。
で、でも二年生の時、俊樹くんは、こんなボクに話かけてきてくれました。
お、"お前バカなんだってな"って……言って、か、からかったり、わ、笑ったりしました』

義　孝　「お……おい、いいのかよ俊樹？」

俊　樹　「あっ、あんの野郎ぉぉっ……」

正　人　『た、多分、他の人はボクを見たら、いじめられてる……とか、悪い事されてるって、お、思うと思います。
ほ、本当の事を言えば、ぶたれれば痛いし、バカって言われたら、か、悲しいけど……』

正　人　『ひ、独りで寂しいのよりかは、い、イイと思いました』

美　香　「……まちゃと」

正　人　『と、特別にされて、離れられて、ムシされるよりも……
と、俊樹くんは、ボ、ボクをずっと近くに置いてくれました。
それだけでう、嬉しいです！』

正　人　『何も喋らないでいるよりも、喋らないと解らない。
みんなぶたないで離れているよりは、ぶたれたとしても一緒の方がイイ……と、ぼ、僕は思いました。
だから、俊樹君にこの歌をお、送りたいです』

正　人　『あ、ありがとうございました』

○校長先生の拍手（パチパチパチ…）

正　人　「（エコー無し）……校長先生？」

校長先生「おめでとう」

○二人…三人と拍手が増えてみんなで拍手の図。
○拍手の音offからBGへ。下の台詞が被る。

俊　樹　「ま、まちゃと……（ちょっとウルっときている）」

義　孝　「あれぇ？お前泣いてる？」

俊　樹　「そ、そんなわけ無いだろ！」

絵　里　「そうだよね～今までのまちゃとへの仕打ちを考えたらねぇ～」

美　香　「どのツラ下げて泣けるんだよってな話だよねぇ」

俊　樹　「うるせぇっ！うるせぇっ！（ヤケになって）」

○BGの拍手の音に美香モノローグを被せる。

美　香M『まちゃとのオンステージで卒業式をぶっ壊そうとしたのに、
逆に、変に感動的な演出になってしまった……けど、これは
これでま、いいか♪
どこにも無いあたし達だけの特別な思い出になったし』

１９	校門前

○BGM:エンディング曲開始。offで、下の台詞被せる。

俊　樹　「(伸び一つ)うぁあ～疲れた～っ！」

義　孝　「一時はどうなる事かと思ったよな？俊樹」

絵　里　「一時ってどの時点よ？(笑)」

遥　「それ以上言わないっ！」

義　孝　「まあ俊樹も、まちゃとに泣かされたわけだしな」

俊　樹　「泣いてねぇっての！」

美　香　「あれ？まちゃとは？」

絵　里　「親と一緒に職員室みたい」

遥　「まあ、結果はどうあれ、卒業式メチャクチャにしちゃった
もんね、今ごろこってり絞られてたりして…」

美　香　「ふ～ん」

義　孝　「そんじゃあ、卒業式も終わったことだし…帰るか」

遥　「ねぇ、ヨッシーなんか食べに行かない？遥おなかペコペコ」

俊　樹　「オレはいいや」

義　孝　「なんで？どうした？」

俊　樹　「なんていうか……オレ、もうちょっと残るわ」

遥　「なんで？用事無いでしょう？もう」

俊　樹　「い、イイじゃん別に……」

美　香　「(気付く)……あたしも。もうちょっと待ってる」

絵　里　「美香が残るならあたしも待ってようっと♪」

遥　「え～、どうする？ヨッシー」

義　孝　「腹減ってるんだろ？一人で行ってこいよ。
オレも俊樹と一緒にあいつ来るの待ってるから」

遥　「(やっと理解する)あぁ～。
……しょうがないなぁ～遥も待ってようっと♪」

美　香M『暖かい風が舞わせた桜の花びらが渦巻く校門の前で、
あたし達はしばらく、お互いのいろんな話をしながら、
もう一人の仲間が来るのを待っていた。
みんなでもっと話をする為に……』

第五話 -終-

ラジオドラマ『卒業-ファイナルゲーム-』　END